

〔福田恒存理解には関係論が重要〕

〔福田恒存著：小林秀雄の『考へるヒント』〕から《小林秀雄とソクラテスとの相似性》：「不知・汝自身(物：場 C')」への対応。

〔小林秀雄〕《関係論》：* ①知らぬ事[不知・汝自身(物：場 C')] ②『歴史』『物』等著作(物：場 C') ⇒ からの関係：①を知らぬとの自覚が知の力(D1の至大化)・①②を「③考へるヒント[手掛り・手続(D1の至大化)]」こそ最も純粹(D1の至大化)、最も激しい行爲(D1の至大化) ⇒ 「④懷疑主義・不可知論(F)」 ⇒ ④とは全く無縁のもの(④への距離把握：Eの至小化) ⇒ 小林秀雄(△杵)：①②への適應正常。

* ①対象(物：場 C') ②『歴史』『物』等著作(物：場 C') ⇒ からの関係：①②を「③考へるヒント[手掛り・手続(D1)]」こそ『最も純粹(D1の至大化)、最も激しい行爲(D1の至大化)』 ⇒ 終點[④答へ・結論(③の對立的概念：F)] ⇒ ④を「⑤豫期しない(Eの至小化)。目的とはしない(Eの至小化)」 ⇒ 小林秀雄(△杵)：①への適應正常。

〔ソクラテス〕《関係論》：* 「ソクラテスは方向を轉回し、凡そ物(物：場 C')を考へる(D1)出發點も終點も『汝自身[不知(物：場 C')]を知る(D1の至大化)』事にあると悟つた【即ち、汝自身[不知(物：場 C')]を『考へる(D1)事それ自體が目的(D1の至大化)』として『考へる手続(D1)を實行(D1の至大化)』】(「プラトンの『國家』」)。

《関係論》：* ①汝自身[不知(物：場 C')] ⇒ からの関係：①を『②考へる(D1の至大化)事それ自體が目的(D1の至大化)』 ⇒ 「③懷疑主義・シニスム」(②の對立的概念：F) ⇒ ③は女々しいジェスチャーと切捨て[③への距離獲得(Eの至大化)] ⇒ ソクラテス(△杵)。

〔小林秀雄〕：(物：場 C')... ①知らぬ事[不知・汝自身(物：場 C')] ②『歴史』『物』等著作(物：場 C')

〔ソクラテス〕
(物：場 C')... ①汝自身[不知(物：場 C')]

D1：(物：場 C')からの関係③「D1の至大化」... ①を知らぬとの自覚が知の力(D1の至大化)・①②を「③考へるヒント[手掛り・手続(D1の至大化)]」こそ最も純粹、最も激しい行爲(D1の至大化)。

D1：(物：場 C')からの関係②「D1の至大化」... ①を『②考へる(D1の至大化)事それ自體が目的(D1の至大化)』。

F(言葉・概念)：関係③的概念(F)... ④懷疑主義・不可知論(F)・終點[④答へ・結論(③の對立的概念F)]

E：[F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法・「so called」(Eの至大化)]。
* 「③との距離把握」(Eの至大化)... ③は女々しいジェスチャーと切捨て[③への距離獲得(Eの至大化)]。

⑤E：[F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法・「so called」(Eの至大化)]。
* 「④との距離把握」(Eの至大化)... ④を「⑤豫期しない(Eの至小化)。目的とはしない(Eの至小化)」。

F(言葉・概念)：②的概念(F)... 「③懷疑主義・シニスム」(②の對立的概念：F)。

(△杵)... 〔小林秀雄〕〔ソクラテス〕：各①①への適應正常(D1の至大化)。